

相場の潮目が変わる時

小回り3カ月

来週15日は「スーパー・イベント・デー」である。オランダ総選挙、FOMC、米国のデットシーリング(債務上限)期限、米国予算教書提出。もうひとつある。米国長期金利とドル円がピークをつけた12/15から丸3カ月が経過する。相場の世界では「小回り3カ月」というひとつのサイクルがある。そろそろ相場の潮目が変わるタイミングに来ている。

外国為替市場ではドル円相場が115円の節目を抜けるのは難しいと思われていたが、抜けてきた。ドル円は一目均衡表の雲のねじれにさしかかり、雲に沿って上へ抜け出ようとしている。雲の上限がまさに115円だ。ここからはドルの上値は重くない。



(出所：Bloomberg)

米国10年債利回りは2.6%へ

最大の支援材料は、米国長期金利が再び上昇してきたことだ。前回のレポートで、「米国金利は上がらず、年初来横ばいだが、決してレンジを切り下げたではない。レンジを切り下げない、ということは、米国債を手掛ける投資家やトレーダーが見方を大きくは変えていない」と述べたが、再び彼らの債券売り

が始まったようである。ビル・グロスが、「2.6%を越えたら債券相場は本格的な長期ベアマーケット入りする」と指摘した、その 2.6%に顔合わせだ。明確にここを抜ければそれこそ相場の景色が一変するだろう。



(出所：Bloomberg)

金利上昇の背景はシンプルである。米国景気が強いからだ。米民間雇用サービス会社 ADP が発表した 2 月の全米雇用レポートによると非農業部門の雇用者数が前月から 29 万 8000 人増と、市場予想（約 19 万人）を大幅に上回った。建設業が 11 年ぶりの増加幅となり、製造業は統計で遡れる 2002 年以降で 2 番目の伸びを記録した。

米連邦準備理事会 (FRB) が 1 日発表した地区連銀経済報告 (ページブック) は、米経済が 2017 年初めから 2 月中旬にかけて「緩やかに拡大した」との総括判断を示した。労働市場の逼迫が続き、一部地区では賃金上昇ペースの加速がみられたと述べている。エンジニアや IT (情報技術) 関連など技能を必要とする人材の不足が賃金を押し上げていると指摘する地区が多かったほか、建設、製造業などでの人手不足をあげる地区もあった。

前回のレポートでも述べたが、早晚インフレが加速してくるだろう。そのことを誰よりも気に懸けているのは物価の番人たる FRB であろう。来週の FOMC では政策金利の見通しなどでサプライズがあるものと期待している。それが長期金利を一段と押し上げ、ドル円相場は円安ドル高トレンドへ回帰するだろう。

ご留意いただきたい事項

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先金融機関より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会